



## NPOの人材育成を支援します

～平成15年度NPO大学開講に向けて～



NPO大学 講義風景

NPO大学は、NPOの人材育成を図る事業として、平成9年度に阪神・淡路コミュニティ基金、コミュニティ・サポートセンター神戸及び兵庫県の3者による共催事業としてスタートし、今年度で7年目を迎えます。この間、NPO大学の卒業生も500人近くを数えています。

今年度のNPO大学は、NPO・学界・行政の関係者によるNPO大学事業運営委員会による企画・運営のもと、当プラザが事務局を担い、トライアルコース・マネジメントコース・ガバナンスコースを順次開講します。

昨年からの講義を行う本拠がプラザに移ったため、インターネット環境が飛躍的に改善されるとともに、豊富な蔵書も利用でき、予習・復習に活用いただけます。

また、トライアルコースの特色である現地研修をはじめ、全コースのカリキュラムも一層充実しています。

### Contents

- P.1 - 4 特集 「NPOの人材育成を支援します」
- P.5 ボランティアセクターを支える「関西福祉大学学生ボランティアセンター」
- P.6 プラザ通信「交流サロンリニューアルオープン」他
- P.7 NPOスクエア「Q&A(法改正と定款について)」、「キーワード(プログラムオフィサー)」
- P.8 広がれ!ボランティアネットワーク「施設とボランティアと施設の「いい関係」」

# NPO大学を受講してみませんか！



## 今年度のNPO大学の特徴は？

### 受講対象ってどんな人？

今年度のマネジメントコースの受講対象はNPOでの実務経験が2年以上のスタッフ、または実務に関する常勤の責任者とする事で明確化しています。これにより、講座を受講する際に、皆さんに情報交換していただくことで、様々なノウハウを自らの団体の運営に生かすことができます。

また、昨年度までは、マネジメントコースとガバナンスコースについて、受講対象層も異なり、別個のコースとして運営していましたが、今年度はガバナンスコースの受講対象を今年度のマネジメントコースの修了者または過去にマネジメントコースを修了した者またはこれに準じる者として、両コースの連続性を高めています。

### ”マネジメントサイクル”ってご存じですか？

カリキュラムとしては、マネジメントコースおよびガバナンスコースとも経営の基本となる一般的な内容を理解いただいた上で、組織の運営にとって必要不可欠な経営のマネジメントサイクルであるPlan Do Seeの各局面で必要な知識を体系的に学んでいただく内容としています。（下図を参照願います。）

### 合宿研修はネットワークを広げるチャンス！

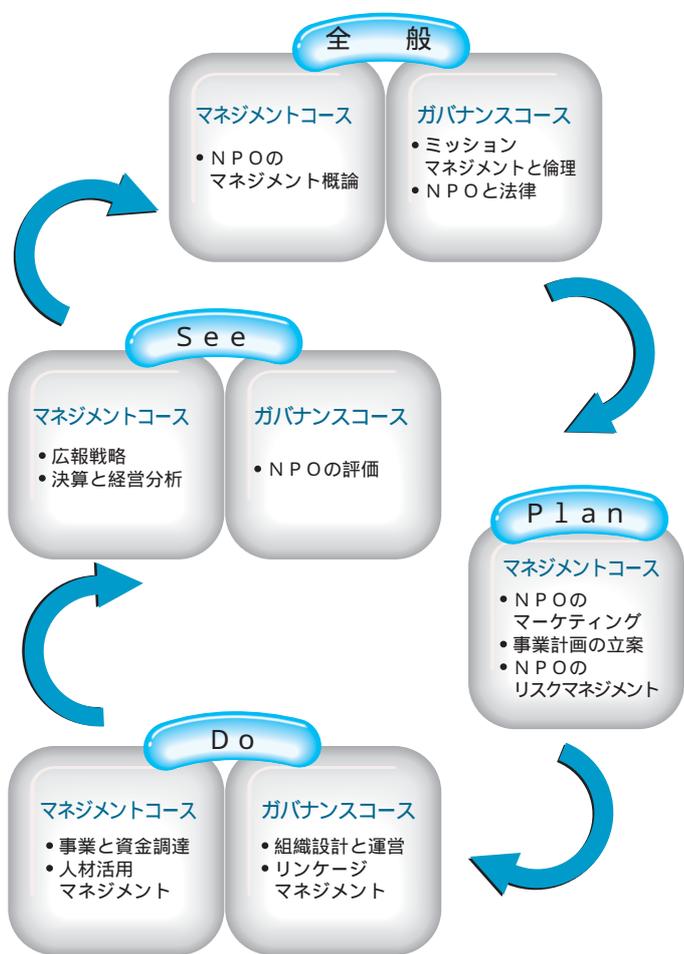
マネジメントコースの目玉である合宿研修においては、ケーススタディ 事例研究 を行い、グループワークにおいて皆さんで議論を進めることでケース（事例）の理解を深めるとともに、グループワークで学んだ内容を皆さんの所属されている団体にフィードバックして、自らの課題の解決方法を探っていただきます。また、懇親の機会もたくさん用意しています。

### 経験豊かなスタッフが応援します！

運営主体であるNPO大学事業運営委員会の委員である中村順子委員（特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター 神戸理事長）と森綾子委員（特定非営利活動法人宝塚NPOセンター 理事兼事務局長）が受講生担当として、これまでの豊富な経験を生かして学習を進める上での疑問や相談に応じます。

### 予習・復習などの自習ができます！

担当講師から紹介いただいた推薦図書を複数用意し、会場であるひょうごボランティアプラザで予習・復習等の自習ができる環境を整えて、みなさんの学習がより実り多いものになるよう応援します。



# NPO大学の講座ってどんなもの？

## ◆マネジメントコース◆

### NPOのマネジメント概論

皆さん、NPOの運営を何となく漫然とやっているというようなくらいではないですか？ 順調に進んでいるときはそれでもいいのかもしれませんがこの講座は、NPOの運営に関する条件や環境といったものを、理論的、体系的に考え直してみようとするものです。NPOの周りには様々な利害関係者がいますが、これは決して二様ではありません。支援者もいれば、サービス提供対象者、いわゆる顧客もいます。支援者の中にも、NPOとの距離は様々。また、NPOを取り巻く環境も、自ら働きかけることで変えることのできる環境もあるれば、どうすることもできない受け身の環境もあります。今後、皆さん方が課題に直面したとき、あるいは効果的なマネジメントを行いたいと考えるとき、どこに、どのように働きかけていけばよいのか、こうしたNPOを取り巻く条件や環境を理論的、体系的に把握、分析する手法として、SWOT分析やステークホルダー分析などの手法を学ぶことがきつと役に立つと思います。

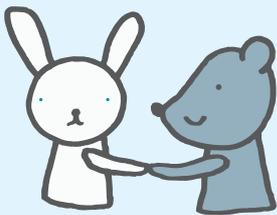
### 人材活用マネジメント

あらゆる組織を運営していくための経営資源として、ヒト・モノ・お金・情報などがあげられますが、NPOにとって特に大切な資源は人材ではないでしょうか？ 組織の規模が小さいうち、代表者がリーダーシップを発揮して、運営していくことが可能ですが、組織の規模が大きくなり、事業量も多くなってくると、組織的な運営が求められるようになります。こうした中で人材活用の優劣がその後のNPOの運営にとって大きな影響を与えます。人材活用のステージとしては、採用・評価・処遇・配置転換・人材育成などの各ステージがあります。採用にあたっては、NPOのミッションを理解してチームとして協力して運営にあたりただける方を見極めが必要になります。また、従事される業務を通じて評価を行うとともに、これに基づき処遇を図り、配置転換などを通じて業務の難易度をあげて人材育成を行うしていくことになります。この講座ではこうした人材活用におけるマネジメントのノウハウについてワークショップを通じて学んでいただきます。

## ◆ガバナンスコース◆

### ミッションマネジメントと倫理

NPOが他の組織と異なる特徴の一つとしてミッション（団体としての存在意義、目標）を共有している人たちの集合体であるという点があります。NPOの運営にあたっては、ミッションを意識して活動されている団体が多いと思います。しかしながら、団体の発足時にはミッションを意識しているものの、団体としての活動が長くなり、活動の種類が多くなってくると、こうした意識が希薄化していく傾向が強くなります。トランスマネジメントとしては、常にミッションに立ち返り、意思決定していく仕組みづくりが求められており、その裏付けとなるスタッフの倫理観の醸成が大きな課題となってきます。この講座を通じて、ミッションを中心に据えたマネジメントの具体的な手法とこれを支える倫理の重要性について学んでいただきます。



### NPOの評価

「NPOの評価」ってあまり聞き慣れない言葉かもしれませんが、実際「NPOの評価」をきちんと実施しているところは、まだまだ少ないのが実状です。しかし、NPOが人材や資金などの社会的資源を多くの支援者から得て、活動を継続していくためには、支援された社会的資源をどんなふうに有効に活用したのか、ミッションはどこまで達成されたのかなどを評価し、情報発信していくことが重要です。そうすることで、支援者を満足させ、継続的な支援を期待できたり、あるいは社会的信頼を得て、より多くの支援者や会員を増やすことができるのです。また、事業の改善にもつながります。この講座では、「NPOの評価」の実践に關しては全国的に見ても第一人者である「特定非営利活動法人「ユニティ・シンクタンク」 評価みえ」の代表理事である粉川一郎氏を迎え、理念の講義だけでなく、シートを用いた評価の実践までを体験していただきます。

「NPO大学の講座ってどんな内容？」「どんなやり方かしら？」「と思っている皆さんに、少しだけ、NPO大学の講座内容を紹介します。豊富な講座内容を限られたスペースで十分に伝えきれないのが残念ですが、興味をお持ちになった方は是非、お申し込みください。

## 昨年度の受講生の声・委員長から一言

### 平成14年度 マネジメントコースを受講して

神戸市シルバーカレッジ社会還元センター  
グループ「わ」 赤司 松美

組織基盤の確立と活動の活性化のためNPO取得をめざしたボランティア団体の役員として、どのような組織マネジメントをしたらよいかを考えていた矢先、本講座を知り受講する機会を得ました。

これから組織を立ち上げようとする人、既に組織の中で関わりのある人も、組織運営上の課題を自ら発見し、その課題を克服し、よりよい組織運営と活動を行う事は個人にとっても組織にとっても大事な事でありです。

「どの様に活動していけば良いのか?」、「活動を活性化するには?」、「もっとしっかりした組織にするには?」等、どの組織団体にもあり、避けては通れない問題を、経験多き講師陣によりわかりやすく実践に即応した例題で解説戴き、解決の糸口となる手法を学びとることが出来る講座であることを受講して痛感し感謝している次第であります。

特に中核講座としての合宿研修はワークショップ形式のケーススタディによる学習で、組織の利害関係の分析、SWOTの分析、事業レベル・組織レベルの問題点の抽出、ミッションの考え方の確認、戦略の構築などの実習で、組織の見直し方、これからの組織の構築および戦略の立て方において非常に参考になり勉強になりました。

手法としても活用させて戴き、諸制度の見直しと改訂を済ませ、組織的にはNPO法人格取得にも弾みがついたところであります。

### 平成14年度 ガバナンスコースを受講して

ひょうご森の倶楽部運営委員  
水菓子 修省

私は、平成13年マネジメントおよび平成14年ガバナンスの各コースで2年連続お世話になりました。これから受講を希望される方も是非、順次レベルを上げて基礎から一歩ずつ進まれることをお勧めします。受講者は、すでに法人の設立経験者、これからNPOに関係した勉強をして、やがて法人の指導者として将来を選択した人達で、社会経験も豊富であることもあって、講義はNPO達人の先生方を中心にして、緊張感を持ちながら、大変有意義であり、議論も活発で、毎回定刻に終了できない状況でした。私の所属団体もこれから法人化に向けて進行中です。ただ残念なことに、NPO法人については組織の中で理解が十分得られていない部分もあり、先ず組織の中核となるスタッフに私が知り得た知識を伝達しながら、速やかに設立の夢を完成させるために努力中の毎日です。NPO大学を是非受講してみてください。その前にNPO関係の本を1冊読んでください。

### NPO大学事業運営委員会

委員長から一言

市民社会研究所 所長 今田 忠

今年も兵庫県の委託を受けて「NPO大学」を開催することになりました。昨年同様、トライアルコースマネジメントコース、ガバナンスコースを設けますが、今年は受講対象を二層明確化することにしました。トライアルコースが体験学習であるのは従来どおりですが、マネジメントコースとガバナンスコースは経営実務の責任者または中堅スタッフ向けとし、ガバナンスコースはマネジメントコース修了者を対象とすることにしました。なお、会計・税務についての要望が多いのですが、会計・税務は専門性が高く短時間で習得することは困難であり、また各地のサポートセンターで実務研修が行われているので、当大学のカリキュラムには組み入れていません。

マネジメントコース、ガバナンスコースは事業型NPOを維持・発展させるための経営実務を習得して頂くのが趣旨ですので受講申込みの際、留意願います。



# ボランティアセクターを **支** える

このコーナーでは、ボランティアセクターの確立に向けて活動を展開している中間支援組織、地域活動支援拠点の取り組みを紹介します。

## ～学生と地域社会をコーディネート、学生主体の中間支援組織へ～

関西福祉大学 学生ボランティアセンター

日本の大学数は、約4200ありますが、学内に学生ボランティアセンターをもつ大学は、約50ヶ所しかありません。設立にいたる経緯は様々ですが、大学主導型、教員主導型のところも多いようです。今回は、学生が主体的に設立し、運営も行っている関西福祉大学学生ボランティアセンターの活動を紹介します。

### 全国から集まってくる 学生と地域を結ぶ学生 ボランティアセンター

関西福祉大学は、学生数が約1000名、設立されて7年目の大学です。学生は地元出身者が少なく全国から集まってきたり、そのため学生がボランティア活動を希望しても、なかなか大学近辺の地域で活動するきっかけをつくりにくいという課題がありました。そこで、学生が地域で様々な活動を行っていくため、地域社会と学生とのパイプ役となり、調整を行う、センターが必要であると、第一期生の学生たちはボランティアセンターの必要性を訴え、学生主体でボランティアセンターが立ち上げました。

### 学生主体の運営体制と、 学校との連携

コーディネートをやっているメンバーは、1・2年生を中心に約15名、クラ

センターのミッションは、「『学生にボランティアへの興味・関心を持ってもらい、快くボランティア活動をしてもらうためのサポートを第一に行うこと』を目的とし、また地域との情報交換を行い、情報の窓口を一本化することを旨とする」と定義づけられています。

ブ室棟にあるセンターを拠点に、昼休みを中心に活動を実施しています。代表をはじめとする役職は2年生が担っており、実習や就職活動で多忙な3・4年生は1・2年生の活動のフォローを行います。普段は2年生が中心でも、いざというときには傍らに上級生がいることで、安心して活動を行うことができます。

学生ボランティアセンターは、運営主体は学生ですが、学友会と並んで学校の組織として位置づけられています。そのため、入学式には、全入学生に向けて、学生ボランティアセンターについてのアピールを実施することができ、センターの存在は全ての学生に知られています。センターに、学生が来所しない日は、ほとんどなく、学生にとって日常から親しみやすいセンターとなっています。

### 活動機会・きっかけを 豊かに提供する

現在、センターの代表をつとめる大野さんは、「活動したい学生が、自主的に豊かな活動を行っていくよう、支援したい」と語ります。旬のボランティア情報に、いつでも学生が接し、その中からやりたい活動にアクセスできるよう、センターでは広報を工夫しています。センター外にも、常に学生が通る場所である、大学入り口のロビーと、食堂の2ヶ所に、活動情報を掲載した掲示板と立看板を設置するほか、また、活動募集のパンフレットを

毎月発行し、大学各所に設置を行っているそうです。

今後、センターは、地域社会や他機関・団体との連携を図りつつ、学内では教員との連携をも模索し、学生の主体的な活動支援の体制の強化を模索しているとのこと。



左よりスタッフの富所さん、代表の大野さん

関西福祉大学  
学生ボランティアセンター

〒678-0255  
兵庫県赤穂市新田380-3  
電話・FAX(直通)  
0791-46-2839





## ひょうごボランティアプラザ交流サロンリニューアルオープン!

8月1日より、ひょうごボランティアプラザの交流サロンが、リニューアルオープンしました。交流サロンは、ボランティア活動に関心のある方なら、どなたでも気軽に打ち合わせやミーティングに利用できるスペースです。情報収集・発信や交流の場として、ご利用下さい!

**新** 交流サロンは  
こんなところ



### インキュベートコーナー開設

交流サロン内に、立ち上げ期にある団体(これからNPO法人を取得しようとする団体及びNPO法人格を取得してから1年未満の団体)の支援を目的に、事務的機能を持ったインキュベートコーナーを開設しました。インキュベートコーナーで利用できるサービスは、パソコンの貸出、郵便物の受け取りとFAX受信、メールボックスの利用、専用の事務ロッカーの利用等があります。詳しくはプラザまでお問い合わせ下さい!!

入口

詳しくは、ホームページまたは下記までお問い合わせ下さい!!

問合せ先 ひょうごボランティアプラザ 〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3神戸クリスタルタワー10階  
TEL:078-360-8845 FAX:078-360-8848 URL:<http://hyogo-vplaza.jp/>

### 第4回

ひょうごボランティアフェア!



## 今年も開催します!!

開催日時 平成16年1月下旬

開催内容(予定)

ボランティア・市民活動元気アップワード

県内で活躍するボランティア団体に対し活動発表の場や企業等からの資金提供の場を設けます。

シンポジウム

ボランティア活動に関するシンポジウムを開催します。

地域活動見本市

県内で活躍する地域活動の見本市です。

会場イベント

マーケットやステージイベントなど楽しい催し物がいっぱいです。

詳細は決定しだいホームページに掲載します。お見逃しなく!

<http://www.hyogo-vplaza.jp/>

## 「行政・NPO協働事業助成」 第2年次採択団体が決定しました!

ひょうごボランティアプラザでは、行政とNPOの協働事業を推進するため、第1年次にNPOが事業企画を提案し、第2年次にNPOが行政の協力を得て事業化計画の立案に当たり、第3年次で事業を軌道にのせるという3段階の助成プログラム「行政・NPO協働事業助成(平成14年度分)」を平成14年度より実施していますが、この7月11日(金)に選考委員会を開催し、第1年次に採択され、コラボメッセでプレゼンテーションを行った14団体の中から、次の10団体が第2年次助成に採択されました。

行政・NPO協働事業助成(平成14年度採択分)第2年次採択団体名・事業名・提案概要一覧

団体名	事業名
海外災害援助市民センター	日本語翻訳による海外の災害情報発信及び学校教育における総合学習等の副読本づくり
(特)神戸まちづくり研究所	ひょうご、まちづくりプラットフォーム」展開事業
(特)コムサロン21	NPO支援 地域ミニプラザ 協働運営システムの構築
(特)女性と子どものエンパワメント関西	子ども育ちに関する学習会とおとして親を支援する事業
(特)シンフォニー	中高年人材マッチングシステム構築事業(NPO人材交流・マッチング事業)
(特)宝塚NPOセンター	社会的起業家・インキュベーション・センター
ツールド・コミュニケーション	多文化コンテンツクリエイター育成活動
(特)日本災害救援ボランティアネットワーク	地域防災力アップ 人材育成プログラム
(特)兵庫県賢友会	『いのちの架け橋』発行事業
(特)兵庫県難聴者福祉協会	パソコン要約筆記者養成事業

このページでは、NPO(非営利組織)活動者や支援者、NPOに関心がある方に向け、活動推進情報を発信していきます。

## NPO Q&A

### NPO法改正と定款について

**Q** 今回、特定非営利活動促進法(NPO法)が改正されましたが、定款に關する改正部分を教えてください。

**A** 改正NPO法は平成十五年五月一日から施行されましたが、定款に關する改正として次のような事項があります。

事業年度について  
まず、事業年度を定款に必ず記載することとなりました。この法人の事業年度は、年 月 日に始まり翌年 月 日に終わる。とする会計期間です。

「その他の事業」としていたものは、その他の事業」という文言に変わりました。「その他の事業」とは特定非営利活動に係る事業以外の事業のことで、従前の「収益事業」のほか、従前のNPO法に明示的に規定されていなかった狭義の「その他の事業」(例えば、特定非営利活動以外の事業や、会員間の相互扶助のための福利厚生、共済等の事業)も含まれます。ただし、既設の法人は、「収益事業」を「その他の事業」に改めるためだけの定款変更は必要ありません。

なお、「その他の事業」に関する会計は、「収益事業」に関する会計の場合と同じく特定非営利活動に係る事業に関する会計から区分して経理することが必要です。事業の変更に伴う定款変更の認証の申請に係る申請書類の追加  
事業の変更に伴う定款変更を行う場合には、定款変更の認証申請書に、次の書類を添付することとなりました。  
定款の変更の日の属する事業年度及び翌事業年度の事業計画書  
定款の変更の日の属する事業年度及定款の変更の日の属する事業年度及

### び翌事業年度の収支予算書

事業の変更(縮小も含む)に伴う定款変更は、設立時と同様に慎重に審査を行う必要があり、「事業計画書」及び「収支予算書」が団体の活動状況を判断する上で重要な書類であることから、設立時と同様に、当該事業年度及び翌事業年度の書類が申請書類として求められることとなりました。

**Q** 認証を必要とする定款変更とは、具体的にどのような場合でしょうか？

**A** 認証が必要な定款変更事項は、軽微な事項以外の定款変更事項で、以下の場合に必要です。

- 目的の変更
  - 団体の名称の変更
  - 活動分野(十七分野)及び事業に関する事務所の所在地の変更、所轄庁の変更(が伴う場合)
  - 社員の資格の得喪に関する事項の変更
  - 役員に関する事項の変更
  - 会議に関する事項の変更
  - 会計に関する事項の変更
  - 事業年度に関する事項の変更
  - 解散に関する事項の変更
  - 定款の変更に関する事項の変更
  - その他任意に規定した事項の変更
- 特に、**新たに活動分野及び事業を追加する法人は、定款変更が必要**です。また、兵庫県の事業計画書の様式が平成十五年五月二日より改正され、事業計画書を作成する際、「定款の事業名」の明記が必要となりましたので、ご注意ください。
- なお、定款の変更は、設立時と同じく、二か月の縦覧期間を経て四か月以内に認証・不認証の決定が行われます。
- 参考資料：兵庫県、特定非営利活動法人の設立・運営の手引、平成十五年五月

## NPOキーワード 今月のキーワード「プログラムオフィサー」

調査や提案がらみで行政が助成する場合、成果がまとまるまであまり口を出さないのが通常である。申請通りに作業が進めばよく、行政に途中での計画変更を納得させるのが難しい。しかし、調査をすれば問題点や課題が出てくるのは当然で、この場合、外部の専門家の知識・経験や、広いネットワークが役に立つことが少なくない。トヨタ財団など民間の助成型財団では、途中段階だけでなく、プログラムの発掘、申請団体への働きかけと事前評価、実施状況の把握と助言、成果の事後評価とフォローなど助成事業全般をカバーする支援体制が整っているが、この仕事を実際に担当するのがプログラムオフィサーである。

プログラムオフィサーには専門性とゼネラリストの両面が求められるが、なにより先申請団体からの信頼が重要である。所属する組織の権威や信用も必要であるが、個人として熱意と経験がなければこの仕事はできない。笹川平和財団の入山映理事長は「思い込み」「思いつき」「思いやり」の3つの思いに対する戦いが、プログラムオフィサーの仕事であると喝破している。

当プラザでも、昨年度から実施している《行政・NPO協働助成》を円滑に進めるため、新たにプログラムオフィサー派

遣制度を設けることにした。前例のない提案を行政に納得させるには、説得力のある証拠と行政の仕組みに関する予備知識が必要であり、プログラムオフィサーによる助言が有益である。

残念なことに、NPOは行政との折衝で不信感を懐くことが少なくない。しかし、県などの行政の対応は、国や民間を相手とする苦い体験で形成されたことも事実である。本来の職責からいって不十分であるが、この制度でプログラムオフィサーの役割についての認識が深まることを期待している。

(K)



# 広がれ！ボランティアネットワーク



入居者の川井田さんを中心に、左から徳田さん、中村苑長、坂本さん。園田苑にて

このコーナーでは、県内のボランティアグループの特色ある取り組み・工夫等をご紹介します。

## Vol.3 「地域と施設を“橋渡し”、地域の福祉力を紡ぐボランティア」 ボランティアグループ「園」

尼崎市・小中島にある特別養護老人ホーム「園田苑」には、「誰が利用者、職員、家族、ボランティア、実習生なのかわからない」、独特の雰囲気があります。園田苑苑長の中村さんは「このような雰囲気を醸し出し、つくり出した功績の大半と責任(?)の一端はボランティアグループ「園」にある」、と語ります。

施設のオープンより早く結成された「園」

園田苑は1988年の設立ですが、ボランティアグループ「園」は、なんと苑開設の1ヶ月前に既に設立されています。「園」の設立に関わった坂本さんは、設立にあたり「この地域に老人福祉施設『園田苑』が実現することをきっかけに私(達)に何ができるのか、あるいは施設は私(達)に何を求めているのか」考えた上、「『園田苑』をあそびたりの施設ではなく地域社会の味がする施設、作られた福祉を受けるだけでなくみんなで創る福祉の一つとしてチャレンジしてみたい」と、世話人となり、地域で熱心にPTA活動に取り組む方々を中心に参加を呼びかけました。結果34名が集い、直後の苑の開設行事の運営から「園」の活躍が始まりました。15年が経過した現在メンバーは44名、設立当初から関わる方も多いそうです。

地域と施設を橋渡し

「園」の活動は「私にできることを探して関わりたい」とを合い言葉に、苑の掃除や食事介助、お話の相手、外出への同行など、入居者のくらしの各場面に日常的に関わるほか、書道や生け花、編み物、園芸等、特技を活かしたプログラム活動を行っています。また喫茶や居

酒屋「そのちゃん」の運営も「園」が中心となって行う活動です。園芸活動も担当する代表の徳田さんは、「苑の前にある花壇の手入れをしていると、道を通る方々が気軽に声をかけてくれます。同じ住民である私たちが関わっているから、園田苑が地域住民にとって親しみやすい施設になっているのでは」と語ります。「同じ住民のあの人がいつも行っているから、私も行っていいんや」と、園田苑での活動には地域の住民が気軽に参加され、冒頭の「誰がどんな属性か分からない」状態が生まれています。

「園」の活動が地域を変えていく！

現在、園のメンバーの多くは、施設内にとどまらず、小中島を中心に地域のミニデイやサロン活動など在宅の高齢者を支える活動でも活躍されています。「楽しんでこそ、ボランティア！」を合い言葉に明るく、生き生きと活動する「園」の皆さんの活動は、施設に地域の香りを運ぶとともに、「楽しく、豊かに暮らせる地域」に向けて施設が根ざしている地域社会全体をも変えていく原動力となっているといえるのではないのでしょうか。

## ボランティアと施設の“いい関係”

「ボランティアなき園田苑は  
どうして考えられない？」

特別養護老人ホーム園田苑 苑長 中村 大蔵さん

「園」が活動している園田苑の苑長、中村大蔵さんに、ボランティアとの連携について、施設の立場からお話を伺いました。

**Q** 施設において、ボランティアしかできないこととは？

**A** 施設とは、「非日常の生活を、日常的に連続させている」ところといえます。それを、いかに日常に近づけていくか。給料をもらっている職員は、業務にも追われ、できることは限られてきます。そんな「非日常」を崩す力を持っているのが、ボランティアです。地域の住民でもあるボランティアが日常から苑や入居者の生活に関わることで初めて、入居者のくらしの中身が地域社会に根ざしていくといえます。施設の社会化、地域化、そして生活としての処遇確保に、地域住民のボランティア参加が必要なのです。

**Q** 職員だけではなく、ボランティアが関わることで、入居者に関わる人々の数が増え、その方をとりまく生活の内容が豊かになっていきます。

入居者がボランティアの家に呼ばれて食事することもあります。それは人と人の「日常のおつきあい」からすれば、当たり前なことではないでしょうか。

**Q** 職員とボランティアの関係について…

**A** 園田苑では大半が20〜30代の若い職員です。職員にとって、40〜50代が中心のボランティアは、「生活全般のよき指導者」であり、「人生の先輩」でもあります。職員が、ボランティアの背中を見ながら育つという側面もあります。ボランティアの関わりは、お年寄りを中心に、いい意味で職員との「緊張関係」そして「協働関係」を生んでいます。

**Q** ずばり、施設にとって、ボランティアとは？

**A** 施設にとってボランティアは、新しい時代をつくる、よきパートナーと思っています。職員の労働補助に甘んじるのはボランティアではありません。どちらかが上・下という関係ではなく、対等な、共同行動者なのです。

## 編集後記

グループ「園」と施設「園田苑」の連携により、入居者のくらしを中心に、施設が、地域が豊かになっていく。このように、つながることによって、相乗効果が生まれる「1+1>2」の活動をこれからもご紹介していきたいと思っております。